My Town
わが街

My Friend
わが友

Mari
マリ

Christine
クリスティーヌ

7

渋谷

国境を越えた「ハチ公」

学生時代の私は土日になると、友達とよく渋谷へ遊びに行きました。もちろん待ち合わせ場所は「ハチ公前」です。永福町から井の頭線に乗り渋谷へ。友達と待ち合わせをするのにとても便利でした。

ハチ公には昔からとても愛着がありました。飼い主が亡くなったことが分からずに、駅前で待ち続けたハチ公。幼いころからその物語を母から聞かされ、かわいそうなハチ公のことを思ってよく泣いたものでした。ハチ公ファンの私は、青山墓地にあるハチ公のお墓を探しだしてお参りをしたほどです。米国人の友達の中には自分の犬に「ハチコー」と名前を付けた人がいました。彼もハチ公の物語を知って、愛犬が自分にも忠実であるようにと名前をつけたそうです。ハチ公の物語は名犬ラッシーのように国境を越えて人の心に染み入っているのだと感じました。

いつもの待ち合わせ場所＝JR渋谷駅前で

ちょうど渋谷の駅前に映画館「全線座」があり、鶴田浩二、高倉健、藤純子（現在は富司純子）が大好きだった私は、土日になると三本立てをよく見に行きました。義理と人情の任侠映画が好きな女子学生というのは、ちょっと変わっていたかもしれませんね。当時は学生運動が盛んでしたが、その活動家の中にも任侠映画ファンが結構多かったようです。「とめてくれるな おっかさん 背中のいちょうが 泣いている」と健さんの「唐獅子牡丹」を気取ったような文句も聞いたことがあります。

「女の子が一人で映画を見に行くのは心配だ」と、永福町の伯父がボディーガードとして一緒に来てくれることもありましたが、同しろ、三本立てです。五―六時間かかるわけで、途中から伯父は座席にもたれて気持ちよさそうにいびきをかきながら寝てしまったものでした。

それでも映画が終わると、伯父は渋谷のガード下のおすし屋さんに連れて行ってくれました。寝ていた伯父とは映画の話はできませんが、おいしいおすしをおなかいっぱい食べさせてもらい、一緒に帰ったことを思い出します。

（異文化コミュニケーター 題字も）

＝全10話